

第7回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成29年7月27日（木）13：00～16：00
- 場 所：分庁第4 2階大会議室
- 出席委員：18名
小林会長，大嶋副会長，浅野委員，遠藤委員，大山委員，藏本委員，齋藤（永）委員，齋藤（一）委員，谷川委員，玉置委員，鳴本委員，西村委員，野本委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，水野委員，三谷委員
- 内 容：下記のとおり

1 議 事

■協議事項（1）第7次笠岡市総合計画の素案について

①資料に基づき，基本計画案の修正箇所について事務局から説明した後に質疑応答。

<委員意見の要旨>

「1-3 商工業振興」

委員：対策の③は当初どういう気持ちで書いたか。希少価値のある技術にもきちんと目を向けていかないといけない。オンリーワン，ナンバーワンの技術を常に注視していくことは文言に入れるべき。

商工観光課長：現況と課題の③にそのようなことを書いており，表現が重複していることから整理させていただいた。

「1-1 企業誘致の推進と雇用創出」

委員：「周辺道路の整備」が消去されているが，新しくスマートICをつくる場合は，それに伴う周辺道路の整備は検討しなくてはならないもの。なぜ消去してしまうのか。

建設部長：「2-3 道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備」の項目に，道路整備の観点から記載しているので重複するため整理した。

「2-5 身近な上水道」

委員：当初は水道料の値下げがメインに書かれていたため「活性化戦略」に入れていたが，その文言が消えていったのだから「安定戦略」で良いのでは。

上下水道部長：そういう考えは特にない。「安全・強靱・持続」の3つの観点を持つ上水道なので，「活性化戦略」に入れている。

企画政策課長：料金というよりは「水道施設の再構築」という戦略的な水道事業を行っていこうという意志を込めてのこと。

「3－2 学校教育の充実」

委員：学力・学習状況調査の結果は4月に行ったものの結果か。結果が出ていれば反映するべき。

政策部長：全体に関して、指標の中でまだ固まっていないものについては、実績を踏まえて今後修正が入る。

「4－3 医療・救急体制の整備」

委員：「救急艇」という表記は、救急艇をつくる前提の文言か。

消防長：救急艇も含めて検討するというので、現在の委託船も検討の1つに入っている。

委員：新病院の建設について、「より駅に近い場所での用地の確保」とあるが、単市でなく、広域での建設は考えていないか。例えば、倉敷・福山への搬送を考えた場合、インターチェンジの近くへの建設も考えられるが。

市民病院管理局長：現時点では病院の広域化は視野に入れていない。単独での建設を中心に検討している。現在の場所での建替をまったく考えていないわけではないので、必要であれば記述を変更する。

委員：「救急隊との接触時間」との表記があるが、「救急隊と接触するまでの時間」が正しいのでは。

消防長：変更します。

「5－2 健全な財政運営」

委員：財政調整基金残高は、平成30年は10億円を目標にしていなかったか。

総務部長：市では、財政運営適正化計画で毎年推計する。今回の表は、最新の市税の状況や交付税等の収入見込みと、今後の財政需要が更に発生すること等を考え合わせて、最新の数字でつくっている。

「5－3 財源の確保」

委員：ふるさと笠岡思民寄附金額の目標値が上がっていないが、増やすべきでは。

ふるさと寄附課長：返礼品の見直しに関する総務省の通知が4月に出された。今後どういう方向性でやっていくかを考えながら、9億円を維持していきたいという思い。

「4-4 障がい者・障がい児福祉の充実」

委員：障がい児については、子どもという観点から「未来戦略」に入れるべきでは。

委員：「障がい児の親をはじめ家族等への支援が必要」とあるが、これに対する対策が書かれていない。

健康福祉部長：対策の記載については少し考える。また、子どもの部分にも障がい児に関することを入れている。ご理解いただきたい。

「4-5 高齢者福祉・介護の充実」

委員：「百歳体操」の表記が残っているので、「いきいき」を入れるべき。また、実施箇所の拡大などと書かれているが、超高齢化に伴うリスクに対する見直しも必要ではないか。

健康福祉部長：安心してできる百歳体操というような表記に変えさせていただく。

②資料に基づき、総論について事務局から説明した後に質疑応答。

＜委員意見の要旨＞

委員：今まで審議したものが総論と整合性が取れていると考えれば良いか。

副市長：そのとおり。

会長：施策評価の結果は今年度実施のものに変えていくか。

政策部長：パブリックコメントには間に合わないかも知れないが、最終的には差し替えた。

会長：SWOT分析はいつごろ検討したか。

副市長：創生総合戦略を策定した際に検討したものを再度見直した。

会長：これらは冊子になるのか。

副市長：はい。概要版もつくる予定。

③「3-2 学校教育の充実」の「【達成目標4】小中一貫校の設立と学校規模適正化の検討」について質疑応答。

＜委員意見の要旨＞

委員：目標値について、前回は具体的な学校名を挙げた上で2校設立としておりイメージしやすかったが、今回は1校と記載されていて、設立する地域も含めどうイメージすれば良いのか分からないし、H33の設立は子ども達のための条件を整える期間として適正か不安。

教育部長：記載については、前回の審議会で「総合計画はもう少し全体像を記述するものだ」などのご意見をいただき、修正した。今後、一貫教育審議会で場所や規模、形態などを検討していきたい。また H33 に 1 校設立という目標については、目標値は少し高く掲げた方が良くという方針も考え合わせたもの。

委員：時系列的な目標も考えればよいのでは。教育委員の意見を聞いてみてはいかがか。

委員：市長は何が作りたいたいのか。分離型か一体型か。「設立」という言葉は新しい建物を「建設」するイメージがあるので反対だが、分離型で「小中一貫教育」の意味合いが強い小中一貫校なら良いという考えで教育委員は一致している。H33 に、などという話は聞いていない。今はまだ市長と教育委員会とで調整中。なので、この記述では不安な面もある。

委員：人口減少し、まちが衰退している時に、教育の問題は大きい。一貫校については他の地域でも成果が上がっていると聞く。現実的に子どもが少なくなっている今、統廃合は避けて通れない。その手段の 1 つとして小中一貫校があり、やるべきではないか。

委員：まだ一貫教育審議会での審議も始まっていないのに、我々総合計画の審議委員は何の答えを出せば良いのか。それでも市長が第 7 次総合計画で意見をまとめて欲しいと投げかけてきているならば、この審議会で答えを出さなければいけないということ。それを受けて、市長と意見交換をしなければいけないという話だったと思うのに、意見交換はなかったが。

副市長：時系列で言うと、1 番最初に市長の思いとして示したのが以前の具体的な記述。それについては、建物についての考え方が教育委員会とまとまっていないということで記述を変更し、この場でお諮りする中で市長が説明した。市長が入ってやり取りすることは、審議会に諮問するという審議会の趣旨と違う。また、子どもの数が減ってきている中、小中一貫の良い点は縦のつながりができること。子供のことを第 1 に考え、縦の集団で切磋琢磨するなら H33 の目標がゼロなのはどうか。これは目標であって、細かい議論は一貫教育審議会や総合教育会議でなされることを期待している。

委員：どういう形態の一貫校を目指しているのか。この文面では、記述を残す残さないの判断に正確を期すことができない。市長と教育委員会の意見が合わないものをこの場に持ってこられて、何を協議しろと言うのか。そして、意見を変えましたのでこれを改めて協議してと言うが、「小中一貫校」という記述が残っているということは義務教育学校も包括されているのではないか。その点を確認できなかったもので、検討が進められない。

副市長：市長と教育委員会の意見は、この文面であれば問題ないということで一致して

いる。

委員：それでは義務教育学校という考えはないということか。

教育部長：今、教育委員会が想定している形の中に義務教育学校はない。4月から一貫教育推進室を設置している。これは、これまで連携教育を進めてきたが、そこから一貫教育にシフトアップしていくという宣言をしたということ。また、教育長が6月議会で「分離型なら可能性があるのではないか」という答弁をしており、このようなところまで教育委員会は検討している。前回の審議会で「市長と一致していない」と答えたのは、詳細を記載することに関して市長と意見が一致していないという意味。一貫校を目指すということは教育委員会も市長も一致している。

教育長：いきなり義務教育学校ではなく、まずは一貫校を目指していったらどうかという方向性で来ており、そのためには教職員の意識を変えることが必要。

委員：義務教育学校をつくろうという市長の考えと、小中一貫校をつくろうという教育委員会の意見が一致していなかったのも、その点が一致していないと申し上げた。

会長：「設立する」ではなく「検討する」と書く方が良いのではないか。

委員：「小中一貫校の設立」と具体的に書くのは今の状態ではいけないと思う。「小中一貫教育の推進」くらいにしていきたい。建物を新築するのは税金の無駄遣いなのでやめていただきたいという市民が多い。

教育長：「小中一貫校」という言葉から一体型をイメージしがちだが、その概念を変えていただきたい。

副市長：「設立」という言葉より「検討」の方が良いというご意見等に関して、事務局で検討させていただきたい。

会長：達成目標4のタイトル「小中一貫校の設立と学校規模適正化の検討」や目標値等についても、「検討」であることが分かるような表記にすべき。